

奈良市第4次総合計画の概要をお知らせします。

基本構想

奈良市が目指す
まちの姿です！

都市の将来像

市民が育む世界の古都奈良

～豊かな自然と活力あふれるまち～

豊かな環境の中で、市民が相互に、また、多くの来訪者と交流することにより、にぎわいにあふれたまちで生き生きと暮らすことを目指します。

◎将来人口目標 35万人（2020年）◎

6つのまちづくりの方向性

時を超えた
歴史と自然を守り、
活かし、伝える
まち

観光

をはじめとする
ビジネスモデルの創
造による活気
あふれるまち

歴史と未来、
都市と田園が共生
する持続可能な
まち

いつまでも
子や孫が笑顔で
暮らせるまち

世代を超えて
市民が力を出し
合い、つながりを
育むまち

市民と行政が
協働する健全な
財政による
まち

総合計画とは？

今後10年間のまちづくりの 基本方針です。

総合計画は、基本構想・基本計画・実施計画で構成されています。基本構想は、目指すまちの姿である「都市の将来像」と、これを実現するための基本方針を定めたもので、基本計画は、各分野で取り組む施策を体系的に定めたものです。実施計画は、基本計画に基づいて実施する具体的な事業計画です。

都市の将来像を実現するために — 基本計画

3つの重点戦略と7分野での基本施策

この第4次総合計画では、基本計画において3つの重点戦略を設けています。基本構想で示したことを実現するためには、バランスのとれた人口構造が必要であり、これを確保するため、「少子化対策」「環境」「観光」の3つを重点戦略として取り組むこととしました。

また、基本計画は7つの章で構成されています。基本構想で示したまちづくりを進めるため、7つの分野でさまざまな施策に取り組んでいきます。

基本計画

重点戦略

～子どもたちが健やかに育ち、
市民が生き生きと暮らすことが
できる社会であり続けるために～

重点戦略

2 環境

本市の大きな魅力である緑豊かな自然と歴史的な文化遺産や、それと調和した景観を守り、「奈良に住みたい」、「これからも奈良に住み続けたい」と感じさせる快適なまちを創ります。

また、環境に配慮した市民生活や社会経済活動を促し、温室効果ガスの削減に努めるとともに、太陽光などの新エネルギーの活用を促進します。加えて、3R（Reduce、Reuse、Recycle）を推進し廃棄物の適正処理を行うことで、環境にやさしい持続可能なまちづくりを目指します。

主力となる基本施策

- 学校教育
- 文化遺産の保護と継承
- 環境保全
- 廃棄物処理
- 景観



重点戦略

1 少子化対策

少子化対策では、福祉、保健、医療、教育、労働、まちづくりなど、幅広い分野に総合的に取り組む必要があります。このため、特に子育て家庭の経済的支援、親子の居場所づくりや仲間づくりなど子育て環境を整備し、出産や子育てのしやすい環境づくりを進めます。

また、家庭、学校、地域が一体となって子どもを育む環境をつくり、小中一貫教育の導入や小学校における30人程度学級の導入といったきめ細かな教育を行うことにより、子育て世代にとって魅力的な環境を整えます。

主力となる基本施策

- 学校教育
- 青少年の健全育成
- 子育て
- 医療
- 保健
- 居住環境
- 商工・サービス業



重点戦略

3 観光

本市の観光産業が経済発展につながる仕組みの構築を支援することで、魅力的な商品開発による消費の拡大と、国内外からの観光客をはじめとする交流人口の増加を図ります。

また、奈良市に存在する世界遺産「古都奈良の文化財」などの歴史的な文化遺産を保護するとともに、その魅力を発信し、有効に活用します。

主力となる基本施策

- 文化遺産の保護と継承
- 交通体系
- 観光
- 商工・サービス業

